

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

7月19日
第3聖日
第3413号

「大胆に神に近づく」

聖
言

私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができます。エペソ3:12

礼拝の恵み 第二一章
第八部 礼拝の障害（つづき）
第五節 あせり
ときには、礼拝集会において、会衆の心があまりに溢れて声にだせないため、沈黙の時が来ることもある。聖なる、しかし雄弁な、礼拝と崇敬との静けさがあり、集まった信者たちに臨む。ときには、性急な信者がこの黄金の沈黙を破って、不適当なさんびかを歌い出し、それによって神の民の礼拝の中へ侵入することがある。礼拝は最高度の霊的分別を必要とする。そして信者各自はこの点に関して主のみまえに訓練を経ているべきである。神の民の礼拝を中絶しないためである。こうした集会では、あせつた仕方で行動するよりも、沈黙を守る方がはるかによい。「なにをしてよいかわからないなら、なにもするな」は至言である。

（「礼拝」ギブス）

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年七月一二日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「神の永遠の御計画」

「私たちの主キリスト・イエスにおいて実現された神の永遠のご計画に沿ったことです。」(エペソ三ノ一一) あのかのベツレヘムの家畜小屋の上に光った星が神の永遠のご計画を實行されました。いま世界のどこに神の永遠の御計画がなされているでしょうか。人間のえごと食欲だけが我が物顔に闊歩しているのです。ちやうどだれも知らない、ただ見向きもしない羊飼いだけにしかしられなかった神の永遠のご計画は今もいと小さいところでおこなわれています。それは日本の社会の縮図を表しているような私たちの教会のなかで行われています。日本ではお供えといいますが、お供えに果物やお饅頭をします。お盆になると特別なお供えをします。なぜ、お供えをするのでしょうか。なくなつた方を大事にするのです。まず、おとうさんにお母さんにお供えをしてそれから、お下がりを生きているものがいたたく。昔からユダヤでは羊や牛をお供えとしてささげていました。ちやうど、日本人が仏壇にお供えをするのとおなじように日常茶飯事に行われていました。これは神の永遠のご計画です。マーズ伝染病感染予防のために、消毒をする。子どもができました。お礼参り。お供えは感謝を表し、汚れを取り除くためでありました。この神の永遠の計画を何千年らい教えられたのです。そして、あのカリバリーの丘ではつきりとしめされたのです。現代はこの教会の中で神の計画が行われています。生まれも、育ちも違う人同士が隔ての壁を取り除き、ともに集い、睦び、食し、賛美を歌う。神の供え物の前に、互いに愛し、赦し合う。なんと麗しいことか。ともにつどうことは、神のお供えを中心にして集

うことはなんと幸いなことか。嫌いな人を友とし、相手がいざらつてもこちらは愛していく。片思いでも祈っていく。これが神の永遠の計画であり、ご自身も永遠の片思いをもつておられたのだから。

二〇一五年七月一五日午後七時 祈祷会 山本牧師

「驚くべき神の教会」

二、神殿の外壁、外庭の三つの門、内庭の三つの門 五ノ三七「東のほうにある門の控え室は両側に三つずつあり、三つとも同じ寸法であった。壁柱も、両側とも、同じ寸法であった。彼が門の入り口の幅を測ると、十キュビト、門の内側の幅の長さは一三キュビトであった。控え室の前に出た仕切りは両側ともそれぞれ一キュビトであった。控え室は両側とも六キュビトであった。彼がその門を、片側の控え室の屋根の端から他の屋根の端まで測ると、一つの入り口から他の入り口までの幅は二十五キュビトであった。」(エゼキエル四〇ノ一〇〜一二)

「私は門です。」(ヨハネ一〇ノ九)

「大庭」詩篇六五、八四

エゼキエルがこの幻を示された詳しい日時が記されている。エゼキエルたちが捕囚となつて25年目(前573)の一月一〇日である。すでにエルサレムが占領されてから、一四年の年月がたつていた。エゼキエルがイスラエルの回復に関する一連の預言(三三ノ三九章)をうけてからも、かなりの年月がたつていたと思われる。なぜ主はこの時期にこのような幻を示されたのであろうか。エルサレム占領後一四年目といえ、解放の七十年にはまだまだあり、預言によつて起こされたイスラエルの回復に対する期待も薄れつつあつた頃だと思われる。しかもバビロンにユダヤ人の間では、捕囚になつてから生まれたエルサレムを知らない二世たちが増えていた。彼らは成長し、そろそろ結

婚話も聞かれる時期になっていた。彼らにとつてエルサレムは話しに聞いた町でしかなく、イスラエルの回復の預言を聞いても、少しも現実味が無かったに違いない。これでは四五年後に約束される解放の時に、誰がイスラエル再建のために立ち上がるだろう。主はそのような状況にあつた捕囚の民が、主の約束を信じ、イスラエルの回復の時を持ち望んで生きて行けるように、新しいエルサレムと新しいイスラエルの具体的な幻を示された。

最初に門と庭について示された。門といつてもアーチ型の回廊である。それが外庭に三つ、内庭に三つ計六つあつた。キリストは狭き門より入る。しかし、信仰によつてだれでも入れる。個人的である。門を出たら外庭がある。個人的に信仰によつて救われた者が集まるところである。続いて内庭に百キュビトはなれて同じ門が三つある。そこから入ると内庭に出る。すなわち外庭とは水のバプテスマであり、内庭とは聖霊のバプテスマである。おまけに門から内庭の中心に祭壇がある。どれだけ信仰が進んでも中心は自己でなく、キリストの十字架の贖いである。

一服ティー構想

七十年にならうとする先人の遺産である教会を活用します。地域の方々に活用していただきます。

今昼から五〇日連続祈禱会を行いつつあり、既に二四回目の終盤にさしかかっています。

これにあわせて、地域の方々と交流に溶け込み易い方法です。現在地域で行われているデーサーブスのような集いです。

教会二階座敷で昼の合間にティーを飲みながら、雑談や音楽を楽しみます。

分かりやすい福音の話をしめます。

教会に馴染んでいただき、信仰に興味を持っていただきます。教会員もポランテヤとして参加します。

茶菓代として二百円を徴収します。

お知らせ

建築後十九年になる礼拝堂の外壁塗装をします。

施工者 村山建築(杉塗装)

費用 二百十六万円(税込み)

期間 七月二三日(木)〜八月一五日(土)